

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	和田ここわ保育園
法人名	株式会社 ディアログ
法人所在地	渋谷区渋谷3-8-12渋谷第一生命ビルディング7階

1. 活動のテーマ

<テーマ>

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実践し、非認知能力の向上等の保育内容の充実を図ります。

<テーマの設定理由>

当園では「ここわの教育」を実施しており、園児に対して養護と共に教育も行っています。「ここわの教育」には英語や運動、リトミック、食育、もじすうじなどのプログラムがありますが、今回は外国人講師が使う英語に注目し、園児たちがその言葉に興味を持っているのではないかと考えました。そのため、普段使っている日本語を含めて、「ことば」をテーマに設定しました。



2. 活動スケジュール

「私たちが話していることばは、何ということばか知っている？」という問いをもとに、子どもたちと知っていることばを色々と言ってみる。

「はらぺこあおむし」（エリックカール）の絵本を見せながら、子どもたちの発することばに耳を傾けたり、ことばのやり取りを対保育者、子ども同士で行ったりする。その後、絵本の読み聞かせを行う。英語講師が来園した際に、「はらぺこあおむし」の英語版“The Hungry Caterpillar”の絵本を見せながら、子どもたちの発することばに対して、英語講師とやり取りする。その後、英語講師が絵本の読み聞かせを行う。

歌や手遊び歌を保育者が日本語で行う。「きらきら星」、「ゲーチョコキパーでなにつくろう」など。その後英語講師が来園した際に、「きらきら星」、「ゲーチョコキパーでなにつくろう」の歌を英語で歌う。

英語活動の際には保育者が記録し、日本語活動の際には保育者ととも英語講師も記録し、特に子どもが英語を発している際のことばや音の聞き分けを担当した。

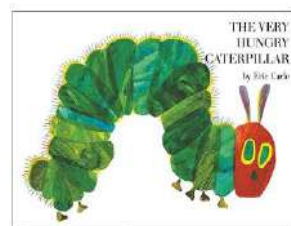
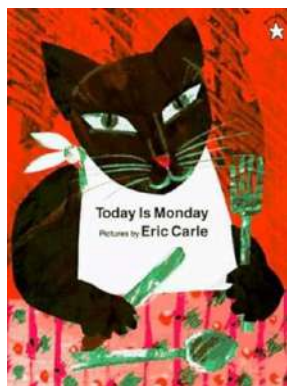
振り返りや共有に関しては毎月月末に英語講師と職員のブリーフィングをおこなっているのので、そこで探究活動の共有を行い、次月の問いを考え環境設定や探究活動のスケジュールを話し合った。保育者同士は職員会議で振り返りや共有を行った。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】 英語講師が来園した際に英語での探究活動を行う。英語での探究活動の際は必ず保育者も同席し、子どもと一緒に英語活動を楽しむ。また自由遊び時間を利用した日本語活動の際は英語講師も子どもと一緒に参加する。



【準備物】 同じ絵本の日本語版と英語版、同じ曲の日本語と英語



4-①. 探究活動の実践（馴染みのある日本語絵本と英語絵本の読み聞かせ）

<活動の内容> 日本語絵本「はらぺこあおむし」を保育者が読み聞かせる。

絵本：「私たちが話していることばは、どんな人でも話していると思う？」

「私たちが話していることば以外で聞いたことがあることばって何かある？」という問いの後私たちの話していることばを子どもたちから集める。その後「はらぺこあおむし」（エリックカール）など日本語でも英語でも出版されている絵本を見せながら、子どもたちに自由に発言してもらう。また知っていることばがあれば、子どもたちに言うように保育者が誘導する。その後絵本の読み聞かせを行う。英語講師が来園した際に、「はらぺこあおむし」の英語版“The Hungry Caterpillar”の絵本を見せながら、子どもたちに自由に発言してもらう。知っていることばを子どもたちが言って、英語講師とやり取りする。その後英語講師が絵本の読み聞かせを行う。

2回目以降は、子どもたちがどのようにことばに対して、興味をもったり、反応したりするかを中心に見ていく。絵本や歌・手遊び歌で実践していき、子どもたちの様子からどのような教材や実践方法が子どもたちのことばへの興味・関心を引き出せるのかというところに重点を置き、実践した。



<活動の内容> 英語講師が英語で"the very hungry caterpillar"を読み聞かせる

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ 英語講師が "～little egg on the leaf"と言うと「卵から青虫が生まれるんだよ」や「次お腹痛くなるんだよ」と何度も読んだことのある絵本ということもあり、次の展開を英語講師に伝える姿があった。
- ・ 食べ物を数える時に"one two …"と言うとその次の数や曜日では"Monday、Tuesday …"と言うと次の曜日を英語で答える。
- ・ 最後の蝶々になる所では何度も見ているが歓声が上がっていた。
- ・ はらぺこあおむしの歌を知っているので歌のメロディで歌ったり最後の蝶の場面では子どもが手で蝶々を表現し絵本にタッチをしていた。



5-①. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】「はらぺこあおむし」の読み聞かせでは、様々な反応、発言が見られ、子どもたちが楽しんでいる様子が見てとれた。

「はらぺこあおむし」は、これまで日本語の絵本を何度も読み聞かせしており、子どもたちの好きな絵本であったことから英語での読み聞かせでも反応が良く、楽しめる要因となったのではないかと感じた。

【次回への問い】子どもたちにあまり馴染みのない「げつようびはなにたべる」の絵本を用いて実践することにした。

4-②. 探究活動の実践（馴染みのない英語絵本の読み聞かせ）

<活動の内容> ②英語講師が英語で"Today's Monday"を読み聞かせる

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ "open please"や"chicken"など講師と同じ言葉を繰り返したり、絵に書いてある食べ物を食べる素振りを見せていた。
- ・ 曜日ごとに"M, M, M"と曜日の頭文字を言うと"Monday!"と答えたり食べ物の頭文字の"i,i,i"と言うと"icecream!"とすぐに英語は出ないが頭文字を講師が言うと英語で答えていた。
- ・ 絵本に出てくる食べ物を「パクッ！」と食べていたり絵を楽しむ姿もあった。

5-②. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】英語の「げつようびはなにたべる」の読み聞かせでは、子どもたちはよく聞いていたが、「はらぺこあおむし」の時に比べ反応や発言が予想通り少なかった。だが、講師が繰り返しのことばがある部分で、ちょっとした仕草を繰り返し行っているとその仕草・ことばを真似する子が現れ始めた。

このような姿からあまり馴染みのないことばに対しては、反応が薄く、また発言が少ないが、『読む』だけでなく何かしらの仕草を用いることが、子どもたちの反応を引き出せる要因になっているのではないかと考えた。

【次回への問い】日本語絵本を保育者が繰り返しのことばを読む際に毎回、同じ仕草を用いながら読み聞かせを実践してみてもうかがうか？

4-③. 探究活動の実践（馴染みのない英語絵本の日本語版）

<活動の内容>②「げつようびはなにたべる」日本語絵本の読み聞かせ

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

保育者が仕草を繰り返し行い読むことで子どもたちからの反応が得られた。



5-③. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】日本語で理解しやすいという要因もあるが、仕草を繰り返し行い読むことで子どもたちからの反応が得られた。

【次回への問い】このように仕草を用いたことで、子どもたちのことばへの反応の変化が見られたことから次は、歌を用いて「げつようびはなにたべる」の読み聞かせを行ってみることにした。歌を用いた実践では、何度も出てくる繰り返しの部分を、だんだんと口ずさむ子が出てきた。「げつようびはなにたべる」の実践から仕草・歌を用いることで、子どもたちのことばへの反応興味が出てきたことから今回は、「ぐーちょきぱーでなにつくろう」の手遊び歌を用いて実践を行ってみた。

4-④. 探究活動の実践（英語の手遊び歌と日本語の手遊び歌）

<活動の内容>④"Rock scissors paper finger play(ぐーちょきぱーでなにつくろう)"英語で手遊び歌を歌う

- ・乳児から何度も楽しんでいる手遊びということもあって日本語で「かたつむり」や「かに」など答えていた。講師が英語で言うと英語を繰り返していた。
- ・Rock-Scissors - Paperの歌の部分は英語の時間に何度か歌ったことがあり、自信を持って歌っていた。



<活動の内容>④「ぐーちょきぱーでなにつくろう」日本語で手遊び歌を歌う

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・馴染みのある手遊びの為、積極的に歌っており、チョキとパーの組み合わせでは定番のかたつむりやアイスクリームと答えていた。
- ・パーとパーになると創造が広がり、ゾウの耳やミッキー、ウサギなど色々な言葉が聞かれた。
- ・やっていくうちに「次はなんだろう」と楽しいにする子もいれば、「次はグーとグーがいい」とリクエストする子もいた。
- ・英語よりも言葉の発言は多かったように思う。



5-④. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】 英語での「ぐーちょきぱーでなにつくろう」の手遊び歌の実践では、予想通り仕草・歌の効果で子どもたちの反応はとてもよかった。

だが、「はらぺこあおむし」の実践と同様に「ぐーちょきぱーでなにつくろう」の手遊びは、慣れ親しんだものであることからくる反応の良さもあるのではないかと考えた。

【次回への問い】あまり馴染みのない「きらきら星」の手遊び歌を英語で取り入れ子どもたちの反応を見ることにした。

4-⑤. 探究活動の実践（馴染みのない手遊び歌の英語）

<活動の内容>⑤"Twinkle twinkle little star(きらきらぼし)"英語で歌を歌う

英語講師がジェスチャーとともに"Twinkle twinkle little star"を子どもたちと英語で歌う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

英語の「きらきら星」の手遊び歌の実践では、子どもたちは講師の仕草の真似をしていたが、"Rock,scissors, paper(グーチョキパーでなにつくろう)の手遊びほどの反応・発言は見られなかった。子どもたちの反応・発言を促すために次は、英語講師と一緒に歌う保育者の表情や抑揚を意識して子どもたちに与える効果も見ることにした。英語講師や保育者が表情を豊かにし、抑揚をつけて実践を行ってみると、子どもたちの笑顔が増え、表情の変化があり、前回より多くの反応が見られた。また、ことばの抑揚をつけたことで、真似をして一緒に発言する子が多くなった。

5-⑤. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】今年度は、子どもたちの反応を見てことばに興味をもつ要因を探りながら実践を行っていった。

英語・日本語に関わらず、仕草やリズムを用いることで子どもたちの反応や発言が増すことがわかった。また、講師や保育者の表情や声の抑揚を意識することで、子どもたちの反応に変化が見られた。

今回の実践を通して手遊び歌を行う意味ということを改めて考える機会となった。保育園にいる子どもたちは、人生の中で一番ことばを獲得していく時期である。乳・幼児期のことばの獲得は、大人の発することばを模倣することから始まる。いかに、大人が発することばに興味をもつかが、ことばの獲得に大きく関わってくる。

今回の実践を踏まえ、子どもたちのことばへの興味関心を引き出していきたいと思う。

【次回への問い】普段、保育園で手遊び歌を行っているが、活動の切り替え時に活用する場面が多く、ことばへの興味関心をもつために取り入れるという意識は薄かったように思う。今後は、手遊び歌からのことばへの興味という点を意識していきたい。また英語講師も週2回ほとんど終日園にいるので、英語を話す保育者と、子どもは見ている可能性がある。別の外国人英語講師が来園して、違う英語を話すことで子どもたちはどのような反応をするのだろうか？